

三島 誇れる場所に

高校生 駅南口などの未来議論

高層マンションを軸とした再開発事業計画が進む三島駅南口東街区など、同駅周辺や三島の未来を地元高校生らが考えるワークショップが29日、市民活動センターで開かれた。高校生ら31人が恵まれた湧水環境など三島の魅力を見直し、市内の行く末に知恵を絞った。

NPO法人グラウンディング(DWG)三島が主催し、渡辺豊博専務理事らが講師を務めた。参加者は豊かな自然や農作物、新幹線駅を有する利便性をはじめとした市内の特徴を抽出した上で、南口の未来を議論した。生徒からは「三島の特長を生かした場所に」「駅周辺が都心のベッドタウンのようになっても三島の発展につながるのだろうか」など意見が上がった。

生まれも育ちも市内の知徳高3年、中野偉慶さんは「物心付いたころから清流がそばにあった。時間をかけて市内外に三島を誇れる場所にしてほしい」と訴えた。

GW三島は9月にも地元高校生を募ったワ



市内の整備案を発表する参加者＝三島市民活動センター

ワークショップを開催する方針。渡辺専務理事は「市の整備案に賛成、反対ということではな

く、『三島の顔』とを「三島の顔」と言

うべき場所を30年後に(三島支局・伊藤龍太)